

手話

34期生

I. テーマ設定の理由

去年の春、環状線の中で、ろうの子供を親が手話で叱っているのを見た。周りの乗客達は皆、好奇の目で彼らを見ていた。恥ずかしながら、私もそのうちの1人だったのだが、そんなことではいけないと思って、少しでも彼らのことを理解しようと考えた。そこで去年の夏休み、自由研究で手話というテーマを選び、その中でも特にろう教育について、手話の歴史や文法、ろう教育のしかたなどを勉強した。今年は、更にそれを深めようという意味で、手話を覚えることにした。

II. 研究方法

- 1) 市役所に電話をかけて、夏休みだけの手話講習をしてもらえるかどうか尋ねる。もし、してもらえなければ、去年お世話になった堺ろう学校にお願いして教えて頂く。
- 2) 手話を覚えて、できるようになる。
- 3) 実際にろうの人と会話をしてみる。

III. 研究結果

(1) 指文字

★手話というのは、単語をつづけたものである。といってもその数は言葉の数に比べると極端に少ない。そこで、手話単語にない言葉、外来語、助詞などを表す時に使われるのが指文字である。より正確に、より豊かに、意志の伝達ができるようになる。あ～んまで、46音を基本として、濁音・半濁音など1音1音を表す。

★長音（スープ、チーズなど）は、かな書きの通り、空中に「ー」を描く。

★同じ音が続く場合は、その指文字を軽く動かす。手前から軽く押し出すようにその数だけ往復させる。

★濁音は、清音の指文字を肘を軸にして横（外側）に動かして表す。

★半濁音（バビブベボ）は、清音の指文字を少し上に動かす。

★拗音（じゅうしょ、としょなど）は、ゆ・よ・やなど小さく書く字の指文字を後方に引く。

★促音（きっぷ、マッチなどのつまる音）は、かな書きの通り、拗音の表し方によって指文字を後方に引っぱるよう動かす。

指文字の形は次に表す通りである。（※ここに表すものは相手から見た形である）

あ aを示す	い 小指はIの形を示す	う 人差指と中指の形はUを示す	え eを示す
お 親指と人差指でOの形を作る	か Kを示す	き 影絵で使う「きつね」の「き」	く 手話数詞の九
け 一指次如している意味の「け」	こ カタカナの「コ」の一部	さ サ行のsを示す	し カタカナの「シ」を形象する
す カタカナの「ス」を形象する	せ 四指の背を出すことで「せ」を表現	そ 「それ」と指示する形	た tを示す
ち 0が三つすなわち「千」から「ち」を表す	つ カタカナの「ツ」を形象している	て 「手」そのものを見せて「て」の意味に	と カタカナの「ト」を形象

<p>な</p> <p>ナ行に通じる nを形象</p>	<p>に</p> <p>カタカナの 「ニ」を形象</p>	<p>ぬ</p> <p>手話の 「盗む」と同じ</p>	<p>ね</p> <p>木の根の 形をあら わしている</p>
<p>の</p> <p>カタカナの 「ノ」を描く</p>	<p>は</p> <p>ハ形のhの形</p>	<p>ひ</p> <p>手話数詞 の「一」</p>	<p>ふ</p> <p>カタカナの 「フ」を形象</p>
<p>へ</p> <p>カタカナの 「へ」を形象</p>	<p>ほ</p> <p>舟の帆を 形象する</p>	<p>ま</p> <p>マ行の Mを示す</p>	<p>み</p> <p>手話数詞の「三」</p>
<p>む</p> <p>手話数 詞の「六」</p>	<p>め</p> <p>目を 形象する</p>	<p>も</p>	<p>や</p> <p>ヤ行の Yを示す</p>
<p>ゆ</p> <p>湯の湯気を 三指で 形象する</p>	<p>よ</p> <p>手話数詞の「四」</p>	<p>ら</p> <p>ラ行の Rを示す</p>	<p>り</p> <p>二指で カタカナの 「リ」を書く</p>

<p>る</p> <p>カタカナの 「ル」を示す</p>	<p>れ</p> <p>カタカナの 「レ」を示す</p>	<p>ろ</p> <p>カタカナの 「ロ」を示す</p>	<p>わ</p> <p>ワ行の Wを形象</p>
<p>を</p> <p>「お」の指文字を少し 後方に引っぱる。</p>	<p>ん</p> <p>「の」の指文字と同じ ように、カタカナの 「ン」をすばやく書く</p>		

② 手話

手話とは、話をするためのひとつの手段で、身振り、目で見える言葉であり、また、口形をとともなうものである。

手話の長所としては、騒がしい所や声の聞こえない所（窓ガラスの向こうとこちなど）でも、普通に話せるということが、短所としては、知っている人が少ない、表現の仕方が少ないので、ひとつの形に多くの意味が含まれていて、言いたいことが伝わりにくい時があるということがあげられる。

1. すみません



親指と人差し指で額をつまむ。



あやまる時の仕草

2. ありがとう



右手で左手を切る仕草



<手話源>

額をつまむと痛い。痛いことをしてごめんなさい——という意味

<手話源>

おすもうさんが、勝負に勝って賞金をもらう時にする仕草で、右手は「刀」の意。「手刀をきる」という意味で、有難いという気持ちを表す。



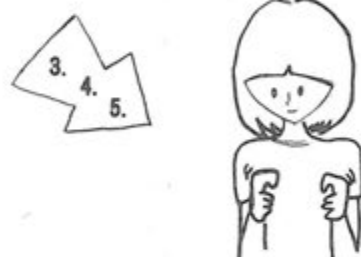
枕をはすず表現



日が暮れて辺りが暗くなることを表現



時計の針が12時を指す表現



あいさつを表現

6. 両親



8. おじいさん・おばあさん



10. 家族



A：あなたは来年いくつですか。

B：16才です。

A ① あなた



相手を指さす

② 未来



右手を前へ押し出す

③ 年



木の年輪を意味する。

④ 年齢



親指とひとさし指のつけ根をあごにもっていき、指を順番におっていく。

⑤ 数



指を順番におっていく。

⑥ ~です



下におさえるように。

⑦ ~か?



何か尋ねる時に使う。

B ① 10



指を1本曲げる。
手話数詞の10

② 6



手話数詞の6

③ ~です



IV. 結 論

去年の研究もあわせて考えてみると、ろうあ者に対して正しく理解している人というのが、とても少ないことがわかった。ろうあ者というのは、手話でなければ話ができない……というのではなく、口話（私達の使っている話し方）だけでしゃべられる人も、全く手話を知らない人もいる。筆談で話をする人もいるし、手話が全てなわけではない。（—とはいても、手話を使う人が多く、手話が早く社会に広がってほしいと願われているのは確かであるが）私達は今回いくつか手話を覚えたけれども、ただそれだけではいけないのだ。それを今後どのように生かしていくかが問題なのである。一番大切なことは、手話ができるとかできないとかじゃなくて、ろうあ者に積極的に交わっていくことなのだ。手話でなくとも、筆談とか、意志の伝達法を考え、とにかくろうあ者の世界にとけこむこと、それが正しく理解するのに一番の近道である。

V. 総 括

手話そのものは、思っていたよりも楽しく、又わかりやすいものだった。去年、ろう教育についていろいろと学んだので、手話を教えて頂いた時もわかり易かった。

まだほんの一部しか覚えていないので、これからもっとたくさん覚えて、ろうの人達と友達になりたいと思う。しかし、11月にあった文化祭では、多くの機会に恵まれていたにもかかわらず、結局1人の中学生からの質問に（それもたったの2問）答えただけで、こちらからは一度も話し出せなかった。ろうの人達と友達になるには、まずこちらから話しかけなければならない。皆さんも勇気を出して、私達と一緒に話しかけてみませんか？

“友達になって下さい”

<参考文献>

目で見るとふれあいの言葉「百万人の手話」 丸山浩路・著